令和３年度　りんご病害虫防除暦

【表示されている農薬の使用基準は令和2年11月30日現在の登録内容です】

JA佐渡りんご倶楽部

回数	散布時期	主な対象病害虫	１0a散布量成木(SS)ﾘｯﾄﾙ	薬剤名および散布濃度	IRAC FRAC	水１００L当たり薬量	収穫前日数	使用回数	使用上の注意
1	発芽～３週間以内	ハダニ類 斑点落葉病、黒星病　褐斑病、すす点病、輪紋病	300	ハーベストオイル　200倍	－	500 ml	－	－	・前年ハダニが多発した場合は実施する。
				ベフラン液剤25　1500倍	M7	66 ml	前日	3	・混用順は①ハーベストオイル②ベフラン液剤２５とする。 ※展葉後は３週間以内に散布のこと（薬害の恐れあり）
2	４月下旬 (開花直前)	黒星病、うどんこ病 ｼﾝｸｲﾑｼ類　ﾊﾏｷﾑｼ類　ｷﾝﾓﾝﾎｿｶﾞ ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ　ｹﾑｼ類	300	インダーフロアブル　5000倍	3	20 ml	14	3	・ﾘﾝｺﾞﾊﾀﾞﾆは生育前半に発生するので前年発生した園地ではダニ剤(ﾊﾞﾛｯｸﾌﾛｱﾌﾞﾙ)2000倍（14日前/2回）を混用散布する。
				サムコルフロアブル10　5000倍	28	20 ml	発生初期（前日）	3	
3	５月上～中旬（落花直後）	斑点落葉病、黒星病　黒点病、褐斑病、うどんこ病 ﾘﾝｺﾞﾊﾀﾞﾆ、ﾅﾐﾊﾀﾞﾆ、ｷﾝﾓﾝﾎｿｶﾞ、ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ﾊﾏｷﾑｼ類	400	テーク水和剤　800倍	3,M3	125 g	30	3	・花腐れに注意。開花期から落花１５日くらいまでは展着剤は使用しない。
				カスケード乳剤　2000倍	15	50 ml	14	2	・カスケード乳剤に替えてサムコルフロアブル10　5000倍（収穫前日、３回まで）でもよい
				クレフノン　80倍加用		1,250 g	－	－	
臨時	５月中旬	斑点落葉病、黒星病　黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	400	オーソサイド水和剤80　800倍	M4	125 g	前日	6	・黒点病多発園は臨時散布する。
4	５月下旬 (落花10～15日後)	斑点落葉病、黒星病　黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病 ｸﾜｼﾛｶｲｶﾞﾗﾑｼ、ｼﾝｸｲﾑｼ類 ﾊﾏｷﾑｼ類、ｹﾑｼ類、ﾘﾝｺﾞﾜﾀﾑｼ	400	ｱﾝﾄﾗｺｰﾙ顆粒水和剤　500倍	M3	200 g	45	4	・この時期に越冬カメムシの発生が懸念されるので、注意し、臨時防除情報に注意する。 ・花腐れに注意。開花期から落花１５日くらいまでは展着剤は使用しない ・クレフノンの替わりにバイカルティ1000倍でもよい **・昨年、ハダニが多かった園地ではﾀﾞﾆｹﾞｯﾀｰﾌﾛｱﾌﾞﾙ2000倍（収穫前日、1回まで）を加用散布する。**
				ﾀﾞｰｽﾞﾊﾞﾝＤＦ　3000倍	1B	33 g	45	1	
				クレフノン　80倍加用		1,250 g	－	－	
5	６月上旬	斑点落葉病、黒星病　黒点病、褐斑病、炭疽病 ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｷﾝﾓﾝﾎｿｶﾞ、ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｶﾒﾑｼ類、ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	500	デランﾌﾛｱﾌﾞﾙ　2000倍	M9	50 ml	60	3	
				スタークル顆粒水溶剤　2000倍	4A	50 g	前日	3	
				クレフノン　80倍加用		1,250 g	－	－	・クレフノンの替わりにバイカルティ1000倍でもよい
6	６月中旬 (落花30日後)	斑点落葉病、黒星病　黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病 ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｷﾝﾓﾝﾎｿｶﾞ、ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ケムシ類、ハマキムシ類	500	オキシラン水和剤　500倍	M4,－	200 g	14	4	**・ﾘﾝｺﾞﾜﾀﾑｼ多発園ではオリオン水和剤40に替えてウララＤＦ　2,000倍（14日/2回）とする。**
				オリオン水和剤４０　1000倍	1A	100 g	前日	2	・開花後1ヶ月後の散布とする。（薬害軽減の為）
				クレフノン　80倍加用		1,250 g	－	－	・クレフノンの替わりにバイカルティ1000倍でもよい。
				展着剤		－			
7	６月下旬	褐斑病、黒星病、斑点落葉病 ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ﾘﾝｺﾞﾜﾀﾑｼ	500	**ユニックス顆粒水和剤　2000倍**	9	50 g	14	4	
				ﾊﾞﾘｱｰﾄﾞ顆粒水和剤　2000倍	4A	50 g	前日	3	
臨時	6月下旬	リンゴハダニ、ナミハダニ	500	カネマイトフロアブル　1000倍	20B	100 ml	7	1	・高温によりダニ発生が懸念される場合に散布する。
8	７月上旬	斑点落葉病、黒星病　褐斑病すす点病、炭疽病、輪紋病 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｶﾒﾑｼ類、ﾊﾏｷﾑｼ類、ﾘﾝｺﾞﾜﾀﾑｼ、ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	500	ﾌﾘﾝﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ25　3000倍	11	33 g	前日	4	
				ｽﾌﾟﾗｻｲﾄﾞ水和剤　1500倍	1B	66 g	30	2	
臨時	７月上中旬	シンクイムシ類、ギンモンハモグリガ、キンモンホソガ、ハマキムシ類、ケムシ類	500	フェニックスフロアブル　4000倍	28	25 ml	前日	2	・特にシンクイムシ多発園では臨時散布する。
9	7月中旬	斑点落葉病、黒星病　黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病 ハダニ類 ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類、ｹﾑｼ類	500	オーソサイド水和剤80　800倍	M4	125 g	前日	6	・３種類の薬剤を混用可能である。
				コロマイト乳剤　1000倍	6	100 ml	前日	1	・この時期以降高温乾燥期時は薬害に注意する。
				ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤　4000倍	4A	25 g	前日	3	
10	7月下旬	斑点落葉病、黒星病　黒点病、褐斑病、すす点病、赤星病、輪紋病 アブラムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ シンクイムシ類	500	パレード15フロアブル　2000倍	7	50 ml	前日	2	・この時期以降、収穫前使用基準を厳守する。（特に早生種のある園地では収穫前日数に気をつけて防除する。）
				ｱｸﾞﾛｽﾘﾝ水和剤　2000倍	3A	50 g	前日	2	
				展着剤		－			
11	８月上旬	黒星病　黒点病、褐斑病、うどんこ病 ハダニ類	500	トップジンM水和剤　1500倍	1	66 g	前日	6	・この時期以降、収穫期防除は展着剤は使用しない。
				ダニサラバフロアブル　1000倍	25A	100 ml	前日	2	
臨時	８月上旬	シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ	500	**テッパン液剤　2000倍**	28	50 ml	前日	2	
12	８月中下旬	斑点落葉病、黒星病　褐斑病、赤星病、黒点病、灰色かび病 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｷﾝﾓﾝﾎｿｶﾞ、ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｶﾒﾑｼ類、ﾘﾝｺﾞﾜﾀﾑｼ、ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	500	オンリーワンフロアブル　2,000倍	3	50 ml	7	3	
				ﾓｽﾋﾟﾗﾝ顆粒水溶剤　4000倍	4A	25 g	前日	3	
臨時	８月中下旬	ハダニ類	500	ダニコングフロアブル　2000倍	25B	50 ml	前日	1	・ダニの発生が見られる場合は単用散布する。
13	９月上旬	斑点落葉病、黒星病　黒点病、褐斑病、すす点病、うどんこ病 ｼﾝｸｲﾑｼ類、ﾊﾏｷﾑｼ類、ｷﾝﾓﾝﾎｿｶﾞ、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	500	ﾌﾙｰﾂｾｲﾊﾞｰ　2000倍	7	50 ml	前日	3	
				ﾛﾃﾞｨｰ水和剤　1500倍	3A	66 g	前日	2	
14	９月中下旬	斑点落葉病、黒星病　褐斑病、すす点病、輪紋病 ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類、ｹﾑｼ類	500	ベフラン液剤25　1500倍	M7	66 ml	前日	3	
				ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤　4000倍	4A	25 g	前日	3	
臨時	９月中下旬	ハダニ類	500	スターマイトフロアブル　2000倍	25A	50 ml	前日	1	・ダニの発生が見られる場合は単用散布する。
15	１０月上旬	斑点落葉病、褐斑病、すす点病、輪紋病	500	ナリアＷＤＧ　2000倍	11,7	50 g	前日	3	

【薬剤散布における注意事項】（必ず守ってください）

（注１）
農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。
周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。）
農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！
散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。
園地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

（注２）
薬剤混用の順序（水和剤混用の場合）　水　→　展着剤　→　殺菌剤　→　殺虫剤
薬剤混用の順序（乳剤混用の場合）　水　→　乳剤
薬剤混用の順序（フロアブル剤、水和剤混用の場合）水　→　フロアブル剤　→　水和剤
※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。

◎りんごの摘果剤利用の場合（満開日を調べておく：散布時期を適期に実施してください。※なお摘果剤としては1回しか使用できません）

対象品種：ふじ、つがる、陽光、さんさ、王林他(デリシャス系には使用しない)

※周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（りんご以外に農薬がかからないよう注意しましょう）

散布時期	薬剤名　散布濃度	１０a散布量 成木	水１００L当たり薬量
満開後　中心果横径 １０～１４日頃　６．５～７．０㎜	ミクロデナポン水和剤　１２００倍 ニーズ(展着剤)　１０００倍加用	手散布５００L SS ４００L	ミクロデナポン水和剤　83g ニーズ(展着剤)　100ml
満開日（２回目散布は２～３日後）（摘花剤）	エコルーキー　100～150倍	ＳＳ　４００Ｌ	エコルーキー　670g～1000g
満開後（２回目散布は３～４日後）（摘花剤）	石灰硫黄合剤　100～120倍	SS ４００L	石灰硫黄合剤　830～1000ml

※摘花剤をＳＳ散布での場合は、低回転で行う。

◎りんご落果防止剤利用の場合（散布時期を適期に実施ください。散布後に降雨があっても、再散布はしないでください。）

散布時期	薬剤名　散布濃度	１０a散布量成木	水１００L当たり薬量と使用上の注意
収穫予定25日前 ※（追加散布を要する場合は収穫15日前）	ストッポール液剤　1500倍 展着剤を使用する。	手散布５００L SS ４００L	ストッポール液剤　67ml 基本的には単用散布とする。 対象品種：つがる、デリシャス系、紅玉
収穫予定２１～７日前に１回散布する。	ヒオモン水溶剤　1000倍 展着剤を使用する。	手散布５００L ＳＳ４００Ｌ	ヒオモン水溶剤　100ｇ 基本的には単用散布とする。対象品種：つがる

◎りんごダニ剤　※下記薬剤は基本的に年間１回の使用としてください。

薬剤名	分類	登録害虫	使用倍率	収穫前日数	使用回数	特徴
ダニゲッターフロアブル	23	リンゴハダニ、ナミハダニ、リンゴサビダニ	２０００倍	前日	1	卵、幼虫、若虫に高い効果あり。成虫に対しては遅効的
カネマイトフロアブル	20B	リンゴハダニ、ナミハダニ	１０００～１５００倍	７日前	1	ハダニに各発育ステージ（卵、幼虫、若虫、成虫）に対して高い効果があります。
ダニサラバフロアブル	25A	ハダニ類	１０００倍	前日	2	ハダニに各発育ステージ（卵、幼虫、若虫、成虫）に対して高い効果があります。
コロマイト乳剤	6	ハダニ類、キンモンホソガ、ユキヤナギアブラムシ、リンゴサビダニ	１０００倍	前日	1	成虫、卵、幼虫に対して効果が高い。（キリフダ剤）
スターマイトフロアブル	25A	ハダニ類	２０００倍	前日	1	既存薬剤に抵抗があるハダニにも優れた効果を示す。（キリフダ剤）
マイトコーネフロアブル	20D	リンゴハダニ、ナミハダニ	１０００～１５００倍	前日	1	成虫、幼虫に高い活性を示す。
ダニコングフロアブル	25B	ハダニ類	２０００倍	前日	1	既存薬剤に抵抗があるハダニにも優れた効果を示す。新規剤
バロックフロアブル	10B	リンゴハダニ、ナミハダニ	２０００倍	14日前	2	卵、幼虫に対して効果が高い。

◎りんご展着剤　※場面により使用する展着剤を選択ください。

展着剤名	有効成分と特性	散布倍率	水100Lあたり薬量	注意事項
ﾈｵｴｽﾃﾘﾝ	ﾎﾟﾘｵｷｼｴﾁﾚﾝｱﾙｷﾙﾌｪﾆﾙｴｰﾃﾙ系（界面活性剤）	5000～20000倍	20～5ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
アビオンＥ	パラフィン展着剤（乳化性と表皮保護に優れる）	1000倍	100ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ブレイクスルー	シリコーン系展着剤（高い拡展性、汚れ軽減効果、散布後の乾きの速さに優れる）	5000～10000倍	20～10ml	薬剤調整後に本剤を加え攪拌する（最後に入れる）

◎りんごカルシウム葉面散布剤

薬剤名	成分	散布倍率	水100Lあたり薬量	特徴と注意事項
バイカルティ(晃栄化学)	カルシウム肥料（ギ酸カルシウム　CA034%）	1000倍	100g	ビターピット、コルクスポット防止（生理障害防止）。樹勢コントロール、徒長抑制、果肉の軟化・褐変防止（白く汚れない。）落花後10日以降に１０日間隔で（薬剤防除と同時)散布

◎りんごアミノ酸葉面散布剤

薬剤名	成分	散布倍率	水100Lあたり薬量	特徴と注意事項
富味ナール	海洋魚からの抽出エキス（アミノ酸）	500倍	200g	使用時期：満開後30,80,100,120日目を目安に葉面散布。糖蓄積量を高め、果実の味と色の向上への効果が期待できます。（アルカリ性農薬との混用はできません。）